

29. 有価証券の時価及び評価差額等に関する事項

これらには、「国債」、「地方債」、「短期社債」、「社債」、「株式」、「その他の証券」が含まれております。

満期保有目的の債券 (単位:百万円)

| | 種類 | 貸借対照表計上額 | 時価 | 差額 |
|--------------------|-----|----------|--------|-----|
| 時価が貸借対照表計上額を超えるもの | 国債 | 2,602 | 2,655 | 53 |
| | 地方債 | 8,092 | 8,253 | 161 |
| | 社債 | 6,694 | 6,819 | 125 |
| | その他 | 300 | 300 | 0 |
| | 小計 | 17,689 | 18,029 | 339 |
| 時価が貸借対照表計上額を超えないもの | 国債 | - | - | - |
| | 地方債 | - | - | - |
| | 社債 | 110 | 110 | △0 |
| | その他 | - | - | - |
| | 小計 | 110 | 110 | △0 |
| 合計 | | 17,799 | 18,139 | 339 |

その他有価証券 (単位:百万円)

| | 種類 | 貸借対照表計上額 | 取得原価 | 差額 |
|----------------------|--------|----------|---------|------|
| 貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの | 株式 | 290 | 271 | 19 |
| | 債券 | 61,271 | 60,629 | 642 |
| | 国債 | 3,343 | 3,305 | 37 |
| | 地方債 | 8,479 | 8,337 | 141 |
| | 社債 | 49,448 | 48,986 | 462 |
| | その他 | 9,337 | 8,898 | 438 |
| 小計 | 70,899 | 69,799 | 1,099 | |
| 貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの | 株式 | 538 | 630 | △91 |
| | 債券 | 33,749 | 34,060 | △310 |
| | 国債 | - | - | - |
| | 地方債 | 790 | 792 | △1 |
| | 社債 | 32,958 | 33,267 | △309 |
| | その他 | 10,210 | 10,914 | △704 |
| 小計 | 44,498 | 45,605 | △1,107 | |
| 合計 | | 115,397 | 115,404 | △7 |

30. 当事業年度中に売却した満期保有目的の債券

該当ありません。

31. 当事業年度中に売却したその他有価証券 (単位:百万円)

| | 売却額 | 売却益の合計額 | 売却損の合計額 |
|-----|-------|---------|---------|
| 株式 | 387 | 17 | 105 |
| 債券 | 1,101 | 1 | - |
| 国債 | - | - | - |
| 地方債 | - | - | - |
| 社債 | 1,101 | 1 | - |
| その他 | 2,302 | 147 | 67 |
| 合計 | 3,790 | 166 | 172 |

32. 満期保有目的の金銭の信託 (単位:百万円)

| | 貸借対照表計上額 | 時価 | 差額 | うち時価が貸借対照表計上額を超えるもの | うち時価が貸借対照表計上額を超えないもの |
|--------------|----------|----|----|---------------------|----------------------|
| 満期保有目的の金銭の信託 | - | - | - | - | - |

33. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は42,480百万円であります。このうち契約残存期間が1年以内のものが10,486百万円あります。

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当金庫の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当金庫が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている金庫内手続に基づき顧客の業況等を把握し必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

34. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳は、それぞれ以下のとおりであります。

| | |
|-------------------|--------|
| 繰延税金資産 | |
| 貸倒引当金損金算入限度額超過額 | 428百万円 |
| 貸出金償却否認額 | 158 |
| 退職給付引当金損金算入限度額超過額 | 92 |
| 減価償却超過額 | 37 |
| その他 | 496 |
| 繰延税金資産小計 | 1,214 |
| 評価性引当額 | △97 |
| 繰延税金資産合計 | 1,116 |
| 繰延税金負債 | |
| その他有価証券評価差額金 | 304 |
| 繰延税金負債合計 | 304 |
| 繰延税金資産の純額 | 811百万円 |

企業会計基準適要指針第26号「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(平成28年3月28日)を平成28事業年度から適用しております。

損益計算書注記

- 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。
- 子会社との取引による収益総額 73,268千円
子会社との取引による費用総額 83,024千円
- 出資1口当り当期純利益金額 229円82銭
- 当該事業年度におきまして、次の資産グループについて減損損失を計上しております。

| 用途 | 種類 | 場所 | 減損損失額 |
|----------|----|--------|----------|
| 営業店舗 1カ所 | 建物 | 茨城県桜川市 | 5,139千円 |
| 営業店舗 1カ所 | 建物 | 栃木県小山市 | 33,806千円 |

減損損失の算定にあたり、当金庫では営業店ごとに継続的な収支の把握を行っていることから、各営業店をグループの最小単位としております。地価の著しい下落または十分なキャッシュ・フローが見込めない資産グループの2ヶ所の帳簿価格を回収可能額まで減額し、当該減少額38,946千円を「減損損失」として特別損失に計上しております。なお、回収可能額は正味売却価格(不動産鑑定評価基準に基づく鑑定評価)と使用価値(割引率0.059%)のいずれか高い金額としております。